

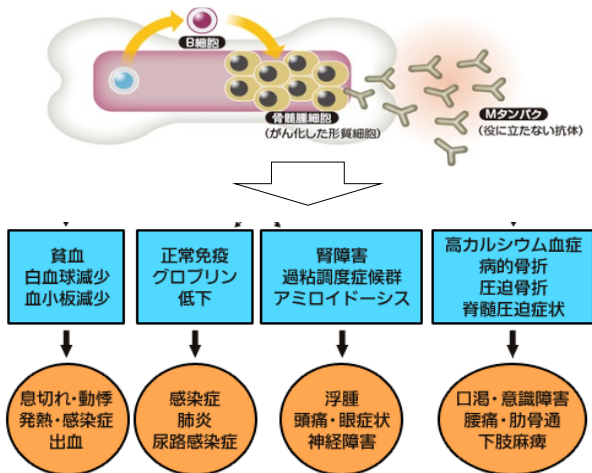


多発性骨髄腫の診断と治療について

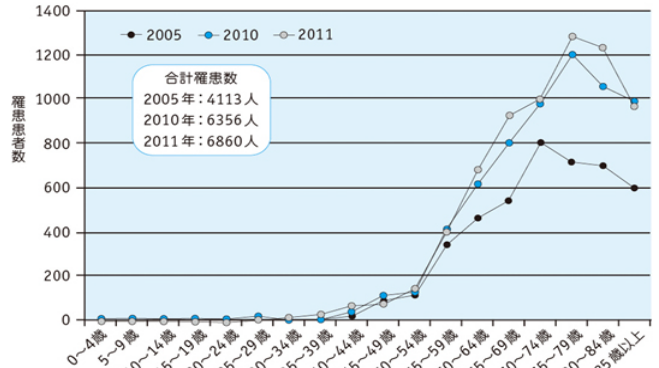
疫学的には罹患率：

人口10万人に5人程度
発症平均年齢：66歳、
男性にやや多い

形質細胞ががん化して骨髄腫細胞となり
骨髄内で異常増殖



多発性骨髄腫罹患患者数



(国立がんセンター：がん情報サービスより)

多発性骨髄腫の症状は、骨病変としての病的な溶骨性変化とそれに伴う骨の痛みが有名です。その他に造血障害としての貧血、免疫不全、腎機能障害、高カルシウム血症など多彩な症状・所見がみられます。検診の二次検査で判明する例も決して稀ではありません。当院で加療を受けている方の受診契機は約60%が貧血精査、30%が骨の痛みで整形外科から、10%が腎障害で腎臓内科からの紹介です。

これまで、メルファランを中心とした化学療法が標準的でしたが、サリドマイドの免疫調節効果が抗腫瘍薬として応用されるようになり、またプロテアソーム阻害薬などの新しい治療薬が次々と登場しています。治療法の急速な進歩により、当院においても、QOLを維持したまま外来で治療を継続できるようになっております。多発性骨髄腫が疑われた際は地域医療連携室へご連絡下さい。

(血液内科：岡本正俊)

寿泉堂綜合病院では地域医療支援病院として病診連携を推進しています。

患者さんのご紹介や外来診療に関するお問い合わせ

寿泉堂綜合病院 地域連携室 ☎024-927-0760 (直通) または

☎024-932-6363 (代表) にお願致します。